

岩手県洋野町における増殖溝を  
活用した藻場の創出・保全活動

---

# 令和5(2023)年度 活動報告及び 令和6(2024)年度 活動計画(案)

洋野町ブルーカーボン増殖協議会

# (1) 洋野町ブルーカーボン増殖協議会の活動について

## 【協議会での主な議題など】

### ①第1回協議会（5月18日）

- ・ J B E の桑江理事長を講師にお招きし、「ブルーカーボンセミナー」開催
- ・ 令和4（2022）年度のクレジット認証に係るフォローアップヒアリング対応
- ・ 藻場計測（グリーンレーザー試験） など

### ②第2回協議会（9月27日）

- ・ 漁場への消波ブロック設置の検討
- ・ クレジット販売状況確認
- ・ 令和5年度のクレジット申請について など

### ③第3回協議会（12月26日、書面開催）

- ・ クレジット申請内容の確認



ブルーカーボンセミナー（5/18 @洋野町役場）

## (1) 洋野町ブルーカーボン増殖協議会の活動について

### ④第4回（2月13日）

- ・令和5年度クレジット認証見込の確認
- ・漁場への消波ブロック設置に係る状況報告 など

### ⑤令和5年度Jブルークレジット発行証書交付式 （3月19日）

- ・吹切幹事、長坂事務局員、佐々木事務局員が出席  
（住友商事からは今枝・塚田・牛場の各氏が出席）

### ⑥第5回（3月28日）

- ・令和5年度クレジット認証報告（町346.5 t-CO<sub>2</sub>）  
及び他プロジェクト活動事例の検証
- ・令和6年度の活動計画について など



町ブルーカーボン増殖協議会のメンバー

## (2) 令和6年度の活動について

### 【主な活動（予定）】

#### ①クレジット認証申請

- ・藻場の計測、データ解析
- ・クレジット認証申請

#### ②クレジット販売

- ・公募販売（令和5年度第4回公募）
- ・相対取引の継続実施及び販売体制の強化

#### ③藻場の創出・保全

- ・ブルーカーボン基金（※1）活用事業の検討、実施
- ・企業等との連携による藻場の創出及び関連技術開発（ブロック設置、大型海藻の養殖など）

※1...令和5年9月造成。クレジット販売益を積み立て、藻場の創出・保全活動に資する事業経費に充てるもの



増殖溝の様子（岩手県洋野町沿岸部）

# (3) その他\_洋野町]ブルークレジット活用事例

### 横浜大会における環境への取組

ワールドトリアスロンシリーズ横浜大会は、横浜開港150周年記念事業として、2009年からスタートし、2023年の大会で13回目の開催を迎えました。

横浜大会では、持続可能な大会運営を目指し、[持続可能な環境]トリアスロン大会]を掲げ、大会運営に取り組みしています。2009年の大会開催前年には、山下公園前海岸の水質浄化実験を行い、海産物等による浄化能力の高い「うに」が豊富なことを取り組んでまいりました。それ以降、横浜市と連携し、各種環境事業に取り組んでいます。

2017大会では、イベントマネジメント国際標準規格[ISO20121(イベントの持続可能性マネジメントシステム)]を我が国で初めて認証取得し、2013大会からは、船橋野島会による「うに」の活用が認められて、認証を継続取得しています。

競技会場(スイム特設会場)に山下公園前海岸を使用していることから、トリアスロン大会を通じて、より多くの方に地球環境、特に海の環境への意識を高めていただくために、ブルークレジットを活用したカーボン・オフセット、売歩わかめ配布による地産地消、GreenTriathlon開催などの取組を推進し、持続可能なより良い世界を目指すSDGs(持続可能な開発目標)の実現に向けて取り組んでいます。

### ブルーカーボンとは

ブルーカーボンとは、大気中の二酸化炭素が海に吸収され、海底や水中生物などに貯蔵された炭素のことです。

海面に堆積した炭素はなかなか分解されず、数千年間保存されます。浅い海域の海底で貯蔵されるブルーカーボンは、海洋全体の約80%を占めます。

### Jブルークレジットとは

#### カーボンクレジット制度

カーボンオフセット(埋め合わせ)

クレジットの発行

クレジットの取引

クレジットの消滅・吸収

クレジットの発行

クレジットの取引

クレジットの消滅・吸収

「岩手県洋野町における増殖藻を活用した藻場の創出・保全活動」による Jブルークレジットを活用したカーボン・オフセット

洋野町

住友商事

#### 岩手県洋野町

洋野町は、岩手県の東北端に位置し青森県との県境に接する人口約1.6万人の町です。

洋野町では、約50年前から岩手県産の「うに」(扇貝)を養殖し、加工品(うに汁)や「うに」を原料とした加工品に活用しています。

#### 藻場の創出・保全活動概要

干潟等でも自力により豊富な海水が流れ込む構造にすることで、ワカメや昆布などの大型の海藻が乾燥し枯死、生育しやすい環境を創り出しています。潮流やその他の要因で荒れた海藻は、潮の干満により流れ替りとして海に流出し、CO2を高度に固定することに貢献しています。

#### 洋野町ブルーカーボン増殖藻協会

洋野町、町内3業協、住友商事株式会社及び住友商事株式会社の子会社である「洋野町ブルーカーボン増殖藻協会」を設立し、クレジット販売により得られた資金は、気候変動対策の更なる発展のために活用しています。

## 豊かな海を守る

# ブルーカーボン・オフセットを実施

Rakuten SUPER ナイター Super Baseball Game

豊富な海を守る

ブルーカーボン・オフセットを実施

## 今後のアイリスチトセのサステナブルな取組み

今後の環境問題に対する取組みやビジョン等ございましたら教えていただけますか。

一番はカーボンニュートラルに向けた動きをもっと加速度的に進めていきたいということです。

その1つの活動として、森の管理も行っていきたいと思っています。

当社の本社を構える宮城県森を何haが実際にFSC認証の取れるようなかたちで森をきれいに管理し、植樹活動等も行いながら、そこで生まれるJクレジットをもとにカーボンオフセットをしていくという事業を立ち上げたいと思っています。

それとは別にもう1つ、VIGOR-OBPのような海洋由来のチェアに対して、海洋由来のクレジットをつけていきたいと考えています。藻場をつくっていくことで藻がCO2を吸収する、それに対して発生するJブルークレジットでオフセットする、そういったことができるとうみの解決にもなり、カーボンニュートラルの取り組みにもなるので。

単純にJクレジットを購入してカーボンオフセットをするだけでなく、自社で二酸化炭素を減らすようなことを「持続可能な環境配慮型の取組み」として推進していきたいと考えております。



### (3) その他\_\_洋野町、岩手銀行、住友商事東北で包括連携協定を締結

#### 「岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動に係る包括連携協定」 締結のお知らせ

岩手銀行(頭取 岩山 徹)および住友商事東北株式会社※1(取締役社長執行役員 遠藤 圭弥)は、洋野町(町長 岡本 正善)と「岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動に係る包括連携協定(以下、本協定といいます。)」を締結いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

先般、洋野町は住友商事東北株式会社、住友商事株式会社及び洋野町内の3漁業協同組合と洋野町ブルーカーボン増殖協議会を設立し、2022年11月にジャパンプルーエコノミー技術研究組合より、過去最大量のJブルークレジット®(※2)3,106.5t-CO<sub>2</sub>の認証を受けました。これを受けて、当行は本協定に基づき、Jブルークレジット®の一部数量について、地場企業への販売仲介業務に取り組んで参ります。なお、**ボランティアクレジット(※3)であるJブルークレジット®の販売仲介は、金融機関では全国初**となります。

当行は2021年4月から販売仲介業務の受託を開始し、これまでに岩手県内3自治体(一関市、岩手県、住田町。取扱順)のオフセット・クレジット販売促進に関する契約を締結しております。本協定に基づき、当行のお客さまへのJブルークレジット®のご紹介を通じ、洋野町および住友商事東北株式会社とともに地域脱炭素・SDGsの達成に貢献して参ります。

